

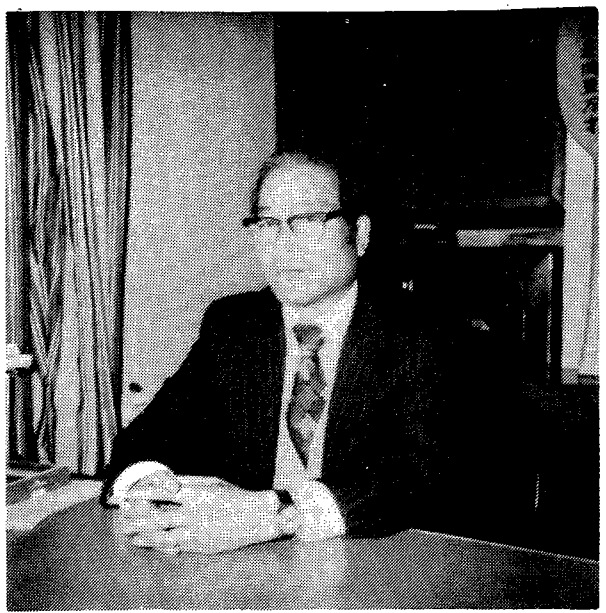
# 日刊 動労千葉

80.1.1  
No. 314

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）四三二二七二〇七

## 闘春

**国鉄千葉動力車労働組合  
執行委員長 関川 亨**



新年あけましておめでとうございます。  
波乱にみちた一九七九年を、全組合員、家族の団結により闘い抜き、新たに迎えた激動の一九八〇年の年頭に当たりごあいさつ申し上げます。

昨年は、私達、国鉄千葉動力車労働組合はもとより、全国の闘闘的労働者、人民にとってまさに歴史的な一年であったと考えます。

総評労働運動の中で唯一、戦闘的、階級的と自負して来た「動労中央」の右翼的変質、すなわち、「貨物安定宣言」「水本デマ運動の組織内持ち込み」「三里塚反対同盟と一線を画す」なる超反動的、反階級の方針の決定。それに対して批判を加える千葉地本執行部に対する規約、規則を無視した統制処分攻撃。これに対して私達は昨年三月三十日、決然として国鉄千葉動力車労働組合を結成し、動労中央の暴力的組織破壊の野望を粉碎しながら公労委の正式認知をかちとり、十・二二―十一・一の二波のストライキをもって「ジェット燃料増送阻止」の実力闘争に決起したことは、私達「動労千葉」の組織力と戦闘力を内外に指し示し、今後の労働運動、住民運動の決起に活力を与えるところ大であったと確認できると思いますが。

今、世界情勢は、イラン、韓国に代表されるように大きく激動しています。国内もまた、自民党の内部抗争、野党間の不協和音等、政治の危機的状況は多くの認めるどころです。そうであるが故に政府権力はその危機を乗り切るためにますます反動的姿勢を強め、労働者階級に対しては指導部丸が政策と弾圧攻撃を使いわけ、アメとムチによる労働組合解体、産業報国会化を意図して

おります。

去る十二月二十七日、国鉄当局はわれわれが「三里塚を闘った」故をもって、二波のストおよび、七九春闘に対する報復的大量不当処分攻撃を加えて来ました。このことは前に述べた政府権力の反動的姿勢の何よりの証左であり、動労千葉の決起を突破口とする八〇年代労働運動の左からの再編が、今大きくまき起ろうとしている事態への恐怖の挑戦であります。この姿の中にこそ、「二期工事強行の前に敢然と立ちふさがった動労千葉」「ストなし体制をうちやぶり35万人体制へのひきがねを引いた動労千葉」の決意と力の前に、完全に顔色を失い、ろうばいしている政府・当局のあせりをはっきりと見ることができます。不当処分を受けた仲間を全組織を挙げて包みこみ、怒りもあらたに不当処分粉碎の断固たる長期闘争を闘いぬいていこうではありませんか。逆に、この闘いを敢然と闘いぬく事を通してのみ、私達の組織を強め、動労内外の闘う仲間の決起をよびさまし、右傾化を強める今日の労働運動の流れに左からくさびをうちこみ、真に「自前の労働運動」を創り出す積極的な契機でさえあります。

「35万人体制粉碎」の決戦を迎えた国鉄労働者と同じく、三里塚・芝山連合空港反対同盟にとっても本年は最大の試練の年となるでしょう。「二期工事強行着工」をめぐる様々の策動が行われる中で、十七戸の敷地内住民を守って、反対同盟の方々は、十四年間の不滅不屈の闘魂をおしたて、意気軒昂と八〇年へ進撃しようとしております。不滅のものとして最大の決戦場をむかえようとして、さらには三里塚闘争を、勝利にむかって、さらに大きく前進させるものとして私達動労千葉の「労農連帯」の旗は益々重大な責務をおひてくることを銘記せねばなりません。

昨年一年間の激闘の勝利、わが道の正義性をお互いがしっかりと確認し、この八〇年々頭に決意も新たに、迫り来る国鉄三五万人合理化粉碎、組織破壊攻撃粉碎、労農連帯強化にむけてさらなる前進をかちとろうではありませんか。

動労千葉闘争委員会は一丸とたってその最先頭に立つ決意であります。  
全組合員、家族の皆さんの御健康を期待して年頭のごあいさついたします。